

東京大学 医学部医学科 3年 矢野孝信

ソウル大学にて自由専攻学部に所属。

寮生活について

2018年度前期は、ソウル大学内にある学生寮に住んでいました。学生寮には2つの種類があり、906棟という一学期7～8万円程度の寮と、それ以外の、一学期4～5万円程度の寮です。私は906棟の方に住んでいました。部屋はルームメイトと分けて、二人で使い、ルームカードでオートロックを解除して出入りします。部屋には大きなベッドが2つあり、衣装箆筒も2つ、勉強机も2つ、さらには生活空間を仕切るスライドまであり、一緒に暮らしていても不便を感じることはあまりありませんでした。トイレとシャワーまで完備されているので、生活に必要なすべては揃っていると言えます。ワイファイも部屋に1つずつあります。洗濯、および乾燥は一階にある洗濯部屋で無料でできます。洗剤や生活用品、食べ物などは寮の近所にあるコンビニで買えます。食堂も寮に隣接しており、そこで朝昼晩すべて食べることができます。カフェもあります。学生寮はソウル大学の中にあり、ソウル大学から最寄りのソウル大入口に行くまでもバス

で15分ほどかかるので、寮から街に下りることは煩わしくも感じましたが、その必要もないくらいに日常生活に必要な物は完備されていた印象です。寮内は女性階と男性階に分かれており、一階にはチュータールームがあります。わからないこと、トラブルなどあればすべてこのチューターにお世話になります。チューターも英語はペラペラの大学院生だったので、留学初期ではその点でも不便はなく、よく助けてくれました。全ての場所に清潔感があり、寮費の安さを考えても、約3ヶ月間非常に良い環境で生活できたと思います。その上で、数ある不便だった点を挙げて行きます。最初に、東大の、チケットを3月以降に取らなければならない都合により寮のオリエンテーションに参加できず、入寮に手間がかかりました。カードがなければチュータールームにも行けず、またカードを受け取るのに地下一階の事務所を訪問、訪問後も韓国語のみ可能な事務員とコミュニケーションがうまくいかず、という事態に陥りました。初めての国、初めての大学、という新入生の立場では、入寮手順も、手続き場所もわかりにくかったです。ただ、これに関しては韓国語が堪能な前期留学者が助けてくればスムーズに進むので、このサイクルが途絶えなければ問題ないと思います。次に、私のルームメイトがオーストリア人でした。性格は悪くなく、関係性も悪くなかったの

ですが、正直韓国人のルームメイトと仲良くなって韓国語の上達を考えていたので、これは予想外でした。教授に面接の際に、ソウル市内の祖父母の家、韓国語の生活圏で暮らしてもいいか質問したところ、韓国の学生との交流という意も兼ねて寮での生活を、とのことでした。実際現地では外国人と同じ部屋、他の日本の留学生と同様に寮にすまず、祖父母の家と一緒に住むことを相談しても、理由もなくダメの一言。寮に話して韓国人と一緒にの部屋に変えてもらえとのことでしたが、寮の方は原則部屋の変更はないとのこと。結局最後まで退寮はしませんでした。せめてなぜ必ず寮に住まなければならないかの説明が欲しかったです。

語学堂について

3月から語学堂の授業を開始しました。開始したのは三級からで、クラスのメンバーは12人。カザフスタン、ウズベキスタン、モンゴル、アメリカ、インド、ロシア二人、台湾、中国3人、という非常に国際的なクラスに入りました。授業開始時は誰よりも韓国語ができず苦労しました。特に最初、自己紹介して、と先生に言われたものの、“自己紹介“さえ聞き取れず非常に戸惑ったのを覚えています。

す。そんな私でも勉強をコツコツ重ね、毎日インド人の友人と韓国語で話しながら昼食を食べ、また韓国人の友人と遊ぶ、という毎日を繰り返すことで、語学堂主催のマラギ大会で一位をとる、という程度にまで韓国語が上達しました。

ソウル大学は学費が他のソウル市内の大学と同じか、すこし安いです。授業は文法の説明にかなり重点を置いている印象ですが、授業は基本生徒に話を振り、発表や演劇などの時間も多いため、スピーキングやリスニングに関しても不足とは思いませんでした。ただ、リーディングとライティングは他の2つに比べ少し弱いように感じました。先生方の授業は非常に丁寧かつ魅力的で、今はおおよそ半年が経ちましたが、毎日飽きることなく学校に通っています。三級までは生活圏内で必須の文法、4級以降からあまり日常では見ない表現になって行くことです。語学堂の時間は個人的には非常に今回の留学で収穫になりました。もちろん日本で受ける教育よりも良い言語教育が受けられることももちろんですが、何より国際色豊かな学生たちと様々なことについて韓国語という外国語を通してコミュニケーションをとる時間が貴重でした。特に、価値観も文化も宗教も違う学生たちが、全く異なる結婚観や人生観、趣味などについて話しているのを見ると、やはり価値観の似通った日本や東京大学という環境ではなかなか得

られない新鮮さを感じました。そしてそんな多様な学生たちでも、ほとんどが KPOP や韓国のドラマなど、共通するカルチャーを持っており、それについて熱く語れる姿を見ると、韓国のカルチャーが世界に対し持つ影響力が小さくないことを感じました。学生たちからは国際性を感じるが多かった反面、先生方からは韓国という国について学ぶことが多かったです。この国はこんな性質、歴史、文化を持っている。韓国の男性はこんな人が多く、これを日本の女性はこんな風に捉えている、など。自らの目だけではとらえきれない韓国の姿を毎日の授業で教えていただき、より深く韓国を知れたように思います。

授業について

最終的に受講した科目は2つです。

科目名：Korean language and culture/学部：Subject for liberal education/ 単位：3credit /曜日：火木/ 言語：English /人数：40

この授業では、アメリカ人の講師が韓国について様々な視点から講義をしていきました。内容は、韓半島の歴史、ハングル、宗教、建築、食文化、文学、大

衆文化、音楽など非常に多様で、2～3回の授業ごとにテーマが変わっていきま
した。参加する学生の国籍は語学堂よりも多様で、アフリカ大陸を除いてほぼ全
地域の学生が参加していました。授業の形式としては毎回授業前に paper を宿
題として課し、その paper を元に授業を進め、各単元が終了するごとに小テス
トを実地、期末テストなどは行わず最後に 4000 単語の paper を提出、という形
でした。授業の内容自体は、日本にいても本を読むことで得られるような知識が
大半でしたがそれを西洋の、外の視点から見つめるというのが非常に刺激的で
した。例えば、韓国がいかに歴史を通して侵略の対象となってきたか、風水を元
にした建築という視点がいかに特異か、などはおそらく同じ東アジア圏の視点
からは感じ取りにくい内容だったと思います。教授の語り口が非常に面白く、ジ
ョークもうまく混ぜながら講義というよりは毎回公演のように授業を進めてい
きました。学生は疑問があればどのタイミングでも自由に質問し、教授がその都
度答えて行く、というスタイルでした。学生も自らの地域の歴史や文化と照らし
合わせて、韓国の歴史と文化に関して掘り下げて行くので、それが非常に面白か
ったです。特に私が非常に面白いと感じたのは、韓国の宗教の講義でした。韓国
は今やキリスト教国であります。その歴史を通しては非常に多様な宗教や思

想が入り混じっています。簡単には、シャーマニズム、仏教、儒教、キリスト教、の順に歴史を通して栄えていきましたが、その全てが今の韓国の中にも未だ根強く結びついています。シャーマニズムの儀式などは今も行われ信奉する人も少なくなく、仏教の寺なども多くブッダの誕生日は国民の休日にもなり、儒教は人々の年上を敬う社会規範として根付いています。それらすべてが混ざり合って形成されるのが韓国の宗教観です。さらに面白いのはそれぞれの宗教同士が微妙に影響を与え合っているという点で、儒教的なキリスト教、シャーマニズム的な仏教、という風に、他の国では見られない独自の宗教観を持っています。まるで日本の神仏混交のように独自の文化を作り上げていく韓国の宗教が学んでいて非常に面白く感じました。

科目名：Advanced English-Exploring film /学部：Subject for liberal education/

単位: 2 credit /曜日：火木/ 言語：English /人数：20

この授業は、基本的に韓国人の学生がとっていた授業です。ただ一人の日本人として参加しましたが、生徒の英語力の高さに非常に驚きました。授業内容としては、英語の映画を授業前に鑑賞し、その映画についての新聞記事を皆で読みな

がら感想共有、各グループが映画の内容について考察した内容をプレゼンテーション、考察内容をレポートにして提出、ディスカッション、実際に映画の内容を演劇する、などでした。授業の目的は、映画というメディアを通した英語能力の強化、というものでしたが、reading, listening, writing, speaking, くまなく鍛えられたと思います。ソウル大学で英語上級を受講するほどの学生たちは、留学している者も多く、4技能全てに関して非常に優れていました。特にスピーキングに関しては大抵の生徒が、僕が他の授業で知り合った、ヨーロッパやアジアのほかの地域の学生よりも綺麗な発音で流暢にしゃべっていました。この発音など1つをとっても、少なくともソウル大学という環境においては、韓国人の学生の英語能力が日本人の学生より優れていると感じました。授業で特に苦労したのは reading の部分で、英語の試験の問題を解くことと実際に本国の映画のレビュー記事を読むことの間には壁があることを感じました。もちろん映画の中でも見たことも聞いたこともない表現が多く戸惑いましたが、一つ一つ丁寧に説明していただく先生でありがたかったです。映画の choice も素晴らしく、SF と現代科学の関連性や、遺族の心理的ケア、貧困差、男女における差別の問題、教育のあり方、など、東大の教養学部で学んでも非常に面白いような内容を各映画に

照らし合わせて浅く広く学んでいきました。最初はこの授業は英語能力の補助程度に考えていたのですが、最終的には自分よりも英語能力の高い学生たちの中で、興味深い内容を多く学べたのでそれが素晴らしかったです。

学内生活について

ソウル大学は韓国国内で最も敷地面積の広い大学で、冠岳山沿いにあるキャンパスで、緑が多く非常に美しいキャンパスです。空気も澄んでおり、いつでもどの位置にいても周囲の山を見ることのできるこのキャンパスが私は本当に好きでした。ただ、春先は黄砂や微細粒子が激しい時期なので、視界もぼやけており、喉も痛くなるほどの大気環境です。春は日本よりも少し肌寒い時期が続きますが、梅雨と夏はほぼ東京と同じで、蒸し暑く太陽も強く照りつけます。ソウル大学はキャンパスが非常に広く、また全体的に斜面になっているため、歩いての移動が大変です。校内には大学のバスや市のバスが走っており、学生たちはこのバスの利用時間と距離も考えて授業のコマを決定するほど、バスがソウル大内でよく使う交通手段です。キャンパスが非常に広いので学生も分散し、道や教室、学食が学生で混むことは全くなく、その点でもストレスなく生活できまし

た。学食はソウル大学内にいくつも存在し、各学食のメニューや値段設定に差があります。学食内にあるメニューは基本2つか3つだけで、それらが毎日変わっていきます。基本的に韓国料理が300-400円ほどの値段設定で出てきますが、腹は満たされ、味も満足のいくものでした。韓国の食事というと野菜を用いたおかずが多く、学食の食事も比較的健康的だったと思います。

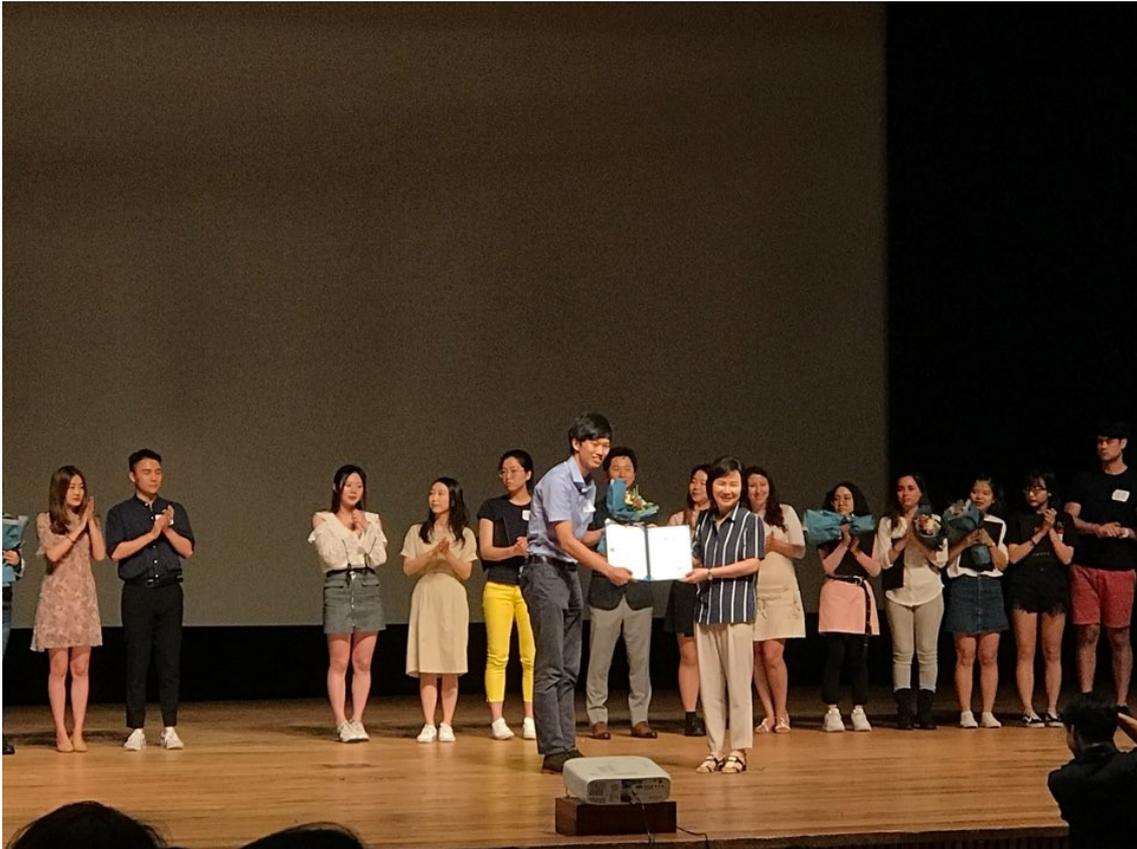
職員は英語が堪能な職員が多く、留学生活が始まってすぐの頃はそれに非常に助けられました。周りの学生を見ていると日本中国にとどまらず様々な国からの留学生が多く、外国人留学生を受け入れる器がある大学だと感じました。特に自由専攻学部のキムチャンミ先生には、困ったことがあれば何から何まで助けていただき、本当に感謝しています。事務関係で何度かミスをしたのですが、基本的に全てなんとかしてくださいましたし、新生活でわからないことは基本的に聞きしました。

今回は一学期間の留学で多くを学ぶことができました。これからもう一学期ソウル大学に留学をさせてもらい、興味のある分野に関して、より深く学んでいきたいと思っています。特に語学堂や生活圏内を通して韓国語能力をさらに習熟させ

ていきたいと思います。



冠岳山からのソウル大学の風景



語学堂のスピーチコンテスト優勝時の写真